



2004年 7月31日発行



今回の紙面から (ページと内容)

- 1 会長就任にあたって
- 2 第22回大会のお知らせ
- 4 理事会・編集委員会・  
大会運営委員会より
- 5 会計報告
- 5 事務局より

## 会長就任にあたって

会長 千葉 修司

この4月より中島平三前会長の後任として、慣れない仕事ながら、新会長の職をお引き受けすることとなりました。1月に“shadow cabinet”ならぬ新事務局を編成し、3月に前事務局より正式事務引継のためのノウハウを授けていただきましたが、その間も、懇切丁寧なアドバイスとともに膨大な量の資料引き渡しおよび情報伝授を受け、事務局のこなすべき業務がいかにも大変なものであるかを事務局スタッフ一同身を以て知ることとなりました。1,700余名の会員よりなる日本英語学会の台所を預かる身として、いささか緊張の面持ちで、マニュアル片手に、4月より今日までの業務をなんとかこなして参りました。まだ歩き初めで、足腰がしっかりしていないところもありますが、会員の皆様のお役に立つよう精一杯努力したいと思いますので、どうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

学会創立以来、今年で22年目を迎えますが、この間、会員の増大とともに、創立10周年記念大会(1992年、東京外国語大学)および創立20周年記念大会(2002年、青山学院大学)を重要な節目とし

て、学会の活動内容が少しずつ拡充・充実化してきました。特に近年では、学会誌 *English Linguistics* が年2回発行されるようになり、海外の著名な言語学者30余名を advisory board に迎えて、質の高い国際的学術誌として認知されつつあります。そのため、科学研究費補助金も昨年と同額の350万円を獲得することができました。一方、大会における従来のワークショップに加え、大学院生の運営によるスチューデントワークショップの企画が実施されるようになり、また、学会賞として新人賞および特別賞が新設されました。なお、The Linguistic Society of America の例にならぬ、今年度から、従来の学会誌と併せてCD-ROM版も会員に配布されることとなりました。これまで取り入れられてきたこのような様々な企画を、今後もいっそう充実化させ、学会にとって必要な改変はできるだけ加えていきたいと考えています。

しかしながら、ここで、会長就任挨拶としてはいささか場違いと知りつつも、会員の皆様にぜひお話ししたいことがあります。それは、学会の財政状態に関することです。特にここ数年間の目覚ましい学会運営の成果の陰に隠れたところに、実は「大きな落とし穴」が潜んでいたということが、今回おこなった財政見直しの結果分かりました。従来は、およそ700万円から1,000万円程度の繰越金を重要な資金の一部とする健全な財政運営が行われていましたが、上述のような学会活動の拡充・拡大に伴い、この何年かの間に、150万円から300万円程度の年度内赤字が出る支出膨張化の傾向が一段と強まり、その結果、今年度の繰越金は470万円程度に落ち込んでしまいました。昨年度並の支出に加えてCD-ROM化のための100万円をさらに支出しなければならない今年度は、次年度

への繰越金がさらに200万円程度減少し、このままでは、2、3年のうちには繰越金も底をつき、年を追って累積赤字を抱え込むこととなります。

そのような財政逼迫化の現れのひとつとして、スタートしたばかりで財政的なこともまだ十分把握しきれていない新事務局をさらに驚かせたことがあります。それは、従来、新年度会費収入(1,000万円)および科研費補助金(350万円)が手元に入る7-8月以前に、繰越金を使って学会事務センター委託費および学会誌刊行費をなんとか支払ってきたのですが、手持ち資金が少ないために、今年度はそれがままならないことが分かりました。事務局スタッフの手当の支払いを延期することによって、なんとか急場をしのいでいますが、ただでさえ忙しい有能な人たちに無理にお願いして事務局スタッフになっていただいた手前、会長としては、はなはだ心苦しい思いを味わっています。

さいわいにも、先日開かれた5月の理事会において、今後、学会費および大会参加費の値上げ案を検討しなければならないという実情をご理解いただき、さらに、理事および評議員から任意の寄付を募る案についてもおおむねご了承を得ることができました。会員の皆様には、新事務局発足年度早々の深刻なお願いで、はなはだ恐縮ですが、なにとぞ事情をご理解くださいますようお願い申し上げます。一方、学会運営に関し儉約を計ることのできる部分については、事務局サイドでも、できるだけ手綱を引き締めたいと考えています。

最後に、11月13日・14日の両日、獨協大学で開催される大会のために、開催校の先生方および大会運営委員の方々が現在準備を進めて下さっています。できるだけ多くの皆様がこの大会にご出席くださいますようお願い申し上げます。

## 第22回大会のお知らせ

日時：2004年11月13日(土)・14日(日)

場所：獨協大学

(〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1)

日本英語学会第22回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。本大会のスケジュールは以下の通りです。

11月13日(土) 午前 ワークショップ  
12:50-13:35 総会  
午後 研究発表・シンポジウム  
17:40-19:40 懇親会  
11月14日(日) 午前 研究発表・シンポジウム  
午後 シンポジウム

今年度は、6つのワークショップ、27の研究発表と7つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。([ ]内は司会者、( )内は講師と題目)

### 13日(土) 午後

1. **Prosody and Syntax** [北川善久] (北川善久：On the Interaction of Prosody, Syntax and Information Structure, 石原慎一郎：Prosody-Scope Match and Mismatch in Japanese Wh-questions, 時崎久夫：Prosody and Phrase Structure without Labels, Amy J. Schafer：Consistency and Variability in Prosody-Syntax Correspondences in English)
2. **移動表現のタイポロジー** [松本曜] (小原京子：移動の様態の日英比較, Christine Lamarre：移動表現のタイポロジーと中国語, 松本曜：類型の混合：移動以外の経路表現から見る)

## 14日(日)午前

### 3. 構文・語彙の意味と構造について—英文法教育に生かす方途を探る— [大庭幸男] (大室剛志：

構文の基本形と変種—文法事項の配列順序への示唆，米山三明：語彙化のパターンから見た英語の構造，大庭幸男：構文の意味と構造，中村 捷：意味合成と解釈—意味と統語の間—)

## 14日(日)午後

### 4. 日本の音韻論教育研究の展望 [原口庄輔] 田

端敏幸：日本の音韻論の研究と教育について，大竹孝司：日本の音声学の研究と教育について，岡崎正男：日本の音韻論関連学会の現状と課題，ディスカッション：水光雅則)

### 5. 歴史言語学の新たな展開—文法化現象をめぐ

って [保坂道雄] (椎名美智：歴史語用論における文法化，秋元実治：文法化と意味変化，縄田裕幸：文法化とパラメーター変化，保坂道雄：文法化と適応的進化)

### 6. 第二言語獲得研究と脳科学の接点 [遊佐典

昭] (遊佐典昭：第二言語獲得研究の展開，酒井邦嘉：第二言語習得における獲得と学習の脳内メカニズム，尾島司郎：第二言語の習熟度と事象関連脳電位)

### 7. On the Roles and Formal Properties of the Lexicon in Generative Grammar [Joseph Emonds]

(Jamal Ouhalla : Category Classification: Dictionary or Syntacticon?, 今泉志奈子 : Complex Event Structures in Lexical Compound Verbs in Japanese: Voice Alternations in the Japanese Verbs *Das-* and *De-*, 漆原朗子 : Representation of Aspectual Properties: Interaction between Lexical and Syntactic Information, Joseph Emonds : The Grammatical Lexicon: The Fundamental Tool for Convergent Numerations)

なお，本大会の詳しい内容につきましては，9月にお送りする大会資料・プログラムをご覧ください。

#### ◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（1,500円）を戴きConference Handbookと名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください。また，13日（土）の受付は12時より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

#### ◇ 総会について

13日（土）の12:50より13:35まで総会を開催します。総会では，会長の就任挨拶，開催校代表のご挨拶，大会運営委員会，編集委員会，事務局からの報告などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

#### ◇ 懇親会について

13日（土）午後17:40より19:40まで，学内の35周年記念館1階多目的スペースにおいて会員懇親会（会費4,000円（学生3,000円））を行います。多数ご参加下さい。

#### ◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため，所属機関に提出する証明書等が必要な方は，返信用封筒を同封の上，下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送り戴ければ幸いです。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内 日本英語学会事務局

#### ◇ 学内食堂の利用時間

学内の食堂は，13日（土）は午前8時30分より午後2時までご利用になれますが，14日（日）はご利用になれませんのでご注意ください。

## 理事会より

### ○ 会計

2003年度収支決算書（案）および2004年度予算計画書（案）について財務係より説明があり、種々審議の結果、承認されました。

### ○ 役員の異動

#### ・ 評議員（退任）

本年3月末日をもって以下の評議員の方々がご退任になりました。長い間、当学会にご支援を賜りまして本当にありがとうございました。  
小川浩氏（東京大学）、堀内克明氏（明治大学）、堀口委希子氏（聖心女子大学）

#### ・ 評議員（新任）

新たに、以下の方々が評議員に推薦され、承認されました。

石井透氏（明治大学）、大庭幸男氏（大阪大学）、斎藤興雄氏（明治学院大学）、高見健一氏（東京都立大学）、林龍次郎氏（聖心女子大学）

#### ・ 事務局長（退任）

本年3月末日をもって瀬田幸人氏（岡山大学）が事務局長を退任されました。この1年間、裏方として多岐にわたり学会事務を支えてこられました。ご尽力に対し心よりお礼申し上げます。

### ○ 第23回大会（2005年度）の開催校と期日

来年度の大会は、2005年11月12日（土）・13日（日）、九州大学（箱崎キャンパス）にて開催されることが決まりました。

## 編集委員会より

### ◇ *English Linguistics* 第21巻1号（2004年春号）の刊行について

EL21.1（春号）が刊行されました。一般論文5編、書評論文4編が掲載されています。会員の皆様には、6月上旬に送付されております。

### ◇ *English Linguistics* 第21巻2号（2004年秋号）の応募論文の査読結果について

EL21.2（秋号）に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。

	一般論文	N&D	書評論文
応募数	13	1	7
採用	4	1	4
不採用	8	0	3
取り下げ	1	0	0

### ◇ *English Linguistics* 第22巻1号（2005年春号）への投稿について

来年2005年6月発行の*English Linguistics* 第22巻1号の原稿締め切りは、2004年10月1日（金）（必着）です。2004年2月発行の会員名簿に記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、規定を遵守してご投稿ください。特に、論文の長さ（1頁25行、70ストローク以内で、一般論文及び書評論文40枚、N&D12枚以内）については、規程違反が甚だしい場合、内容のいかんに関わらず不採用となりますので、十分ご注意ください。

## 大会運営委員会より

### □ 第22回大会の個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表へは52篇の応募があり、審査の結果、本大会では27篇の研究発表が行われることになりました。

### □ 親と子の部屋についてのお知らせ

今年も大会会場に「親と子の部屋」という名

の保育室を設けます。詳しくはHPに掲載されている前年度の利用方法を参照され、利用ご希望の方は10月末日までに事務局にご一報下さい。なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご注意ください。

## 2003年度会計報告

2003年度収支決算書（2004年4月1日現在）が監事（長原幸雄氏，大庭幸男氏）による監査を経て、5月22日の理事会で承認されました。

---

### 事務局より

- 2004年3月31日現在の会員総数は、1,747名です。会費未納の方は、日本学会事務センターから送られました振込用紙で、至急納入して下さいますようお願いいたします。
- 学生会員の皆様方には、学生会員調査におきましてご協力を戴き、厚くお礼申し上げます。
- 11月の大会では、例年「親と子の部屋」を設けており、専門の保育士が待機しています。しかし、残念ながら、ここ数年は一昨年やっとお

一人のご利用があったのみです。今年も開設いたしますので、是非ご利用戴ければと存じます。

なお、ご利用の方は、お子さんの年齢等、10月末日までに事務局へご一報戴ければ幸いです。

## 編集後記

本年4月より、事務局のメンバーが一新され、次のような構成となりました。

事務局長：池内正幸（津田塾大学）

編集委員会・理事会書記：

前田道代（神奈川県立外語短期大学）

井川壽子（津田塾大学）

評議員会・大会運営委員会書記：

鈴木 猛（東京学芸大学）

財務係・新人賞書記：

佐藤響子（横浜市立大学）

新米事務局は、財政危機の直撃を受けつつ、奮闘中です。しかしながら、事務量も多くかつ複雑で、また、不慣れなこともあり、会員の皆様には行き届かぬ点多々あるかと存じます。千葉会長のもと事務局員一同、今後とも精一杯努める所存でおりますので、どうぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

現在、11月13日～14日に獨協大学で開催されます第22回大会に向けて、大会運営委員会、開催校委員、事務局員等、全力をあげて準備を進めています。この大会が盛会となりますよう、どうかご参加戴き、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

---

2004年7月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 千葉 修司

発行所 日本英語学会

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内

電話 (03) 3314-8181

---



古紙配合率 70%再生紙を使用しています